

郵便はがき



〒四二六〇〇二五  
藤枝市藤枝四一七  
大慶寺 大場正昭  
Tel. 〇五四一六四一〇二二九  
Fax 〇五四一六四一六二二六  
✉ ohba@enmyozan.org

## お施<sup>せ</sup>餓<sup>が</sup>鬼<sup>き</sup>会<sup>え</sup> 8月8日(火)

左記のようにお施餓鬼会を営む。各家先祖代々、初盆霊位供養、そして命あるすべてのものに感謝する年1回の総供養法要です。お忙しい中ですが、ご参列お焼香下さい。

記

●日時 8月8日(火曜日)

午後1時 法話

午後2時 施餓鬼法要

付施餓鬼塔婆供養

●塔婆申込べ切は8月7日です。

・付施餓鬼塔婆代は1本2千円。

・初盆塔婆代は3千円。

(申し込み例)

〇〇家先祖代々之霊 〇〇信士之霊 等

電話、FAX、Eメールで受付けます。

Eメールアドレスは「ohba@enmyozan.org」

■8月盆経の時間を7月初旬に「案内」

8月盆経(初盆経含む)日時をお施餓鬼案内に同封致しますので、ご確認下さい。

## 大慶寺本堂の樗（けやき）の柱

現本堂は大正12年に着工し、昭和2年に竣工した。本堂内の樗の丸柱4本は、葉梨の檀家さんの山で先祖代々何百年と育ててきたもの。その内の2本は、円周157cm、直径50cmの樗の丸柱。

現在、この太さの柱をだす樗の原木は、日本国内に存在しない。今や大変貴重な柱となった。

先代住職の話では、檀家さんは、一自分と子孫が安心してお参りできる本堂を建設してもらいたい」という思いで寄進したそうだ。

築後90年を経過したが、年数を感じさせない頑強な本堂は、この4本の柱のおかげだ。

ある時、本堂修理をお願いする宮大工さんと話をした。「この太さの樗の柱は出てこない。これから出るとすれば、百年単位の先」と教えてくれた。更に、樗の丸柱の作り方を教えてくれた。樗は堅くて重い木として有名。削るのも容易でない。まして、今のような機械設備は無く、昔はすべて手作業。



先ず最初に四角形の普通の柱を作る。その後四角形の角を削り、八角形の柱にする。そして同じ要領で、十六角、三十角と少しずつ丸に近づけていくのだ。丸柱ができるまでは、果てしない長丁場。

出来上がった丸柱を見れば、丸い柱に見えるが、手を横に動かして触ってみるとボコボコしている。今の柱は機械削り。あつという間に丸柱になる。その丸柱を横に動かしながら触ってみると、機械で削ったので、つるつるしているという。

宮大工さん曰く、「宮大工が月日を掛けて、削って削ってできた柱。だから大慶寺の樗の柱は値打ちがある」という。本堂にお参りした折は、是非この樗の丸柱に手を横に動かしながら触って頂きたい。

しかし、この堅牢な本堂でも、昨年の耐震検査では、今の耐震基準に届いておらず、基礎強化と壁の補強を指摘された。